

経済の改善を背景に、 堅調が期待される新興国株式

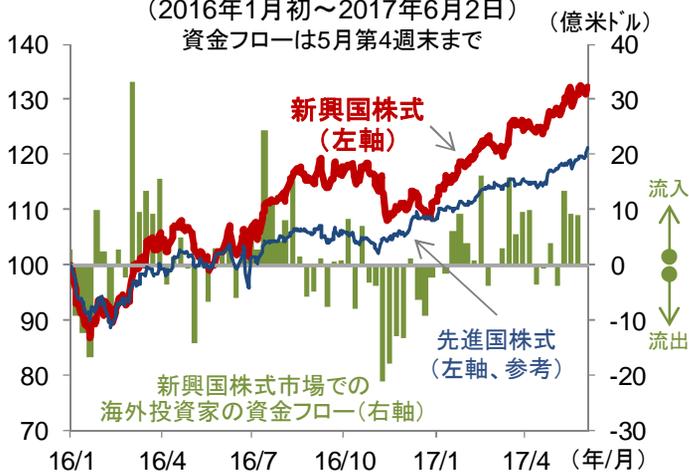
新興国株式市場は年初から、資金の流入基調などにより、先進国株式市場を上回るパフォーマンスとなっています。この背景には、米国を中心に世界景気が改善基調となるなか、資源価格の持ち直しに加え、新興国の輸出が勢いを増していることなどが、新興国経済の改善につながっていることがあります。

国別に見ると、ブラジルの2017年1-3月期の実質GDP成長率は、農業部門がけん引し、前期比1%増と9四半期ぶりにプラスに転じました。鉱工業や家計消費が持ち直しつつあり、低迷が続いた経済に持ち直しの兆しがみられています。ロシアは、インフレ率が低下する一方、消費は改善しており、4月のIMF(国際通貨基金)世界経済見通しでは、2017年、2018年とも実質GDP成長率が1.4%増と前回から上方修正されました。インドネシアは、石炭や天然ガスなどの資源輸出が好調となっており、国内投資が活発化する一方、インフレ率は落ち着きをみせています。インドは、昨年11月に実施された高額紙幣廃止が消費などに響き、1-3月期の実質GDP成長率は前年同期比6.1%増と前期から減速したものの、先行きについては、税制改革や規制緩和が成長加速をもたらすとみられています。中国は、娯楽などのサービス関連消費が堅調なほか、インフラ投資などは引き続き好調となっており、1-3月期の実質GDP成長率は前年同期比6.9%増と前期から加速しました。このように、新興国経済は成長率にバラツキがみられるものの、改善基調となっています。新興国株式のバリュエーションに目を向けると、PBR(株価純資産倍率)は、過去10年程でも低水準にあり、既に高水準にある先進国株式に比べて割安感があると考えられます。今後、米国政治が混乱する場合や、北朝鮮などの地政学リスクが高まった場合などには、新興国株式も短期的に調整する可能性があるものの、米国に加えて、足元でユーロ圏の景気にも改善がみられることなどから、世界貿易の拡大を通じて新興国のさらなる輸出増加が期待され、新興国の経済や株式市場にとって、良い環境が続くと考えられます。

新興国株式(米ドルベース)と資金フローの推移

(2016年1月初～2017年6月2日)

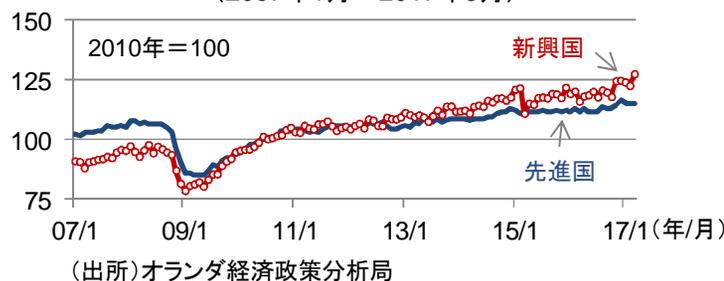
資金フローは5月第4週末まで



- ※株式(左軸)は、グラフ起点を100として指数化
- ※資金フローは、インド、インドネシア、フィリピン、ブラジル、トルコ、南アフリカの合計
- ※新興国株式:MSCIエマージング・マーケット指数(トータルリターン)
- 先進国株式:MSCIワールド指数(トータルリターン)

新興国と先進国の輸出数量の推移

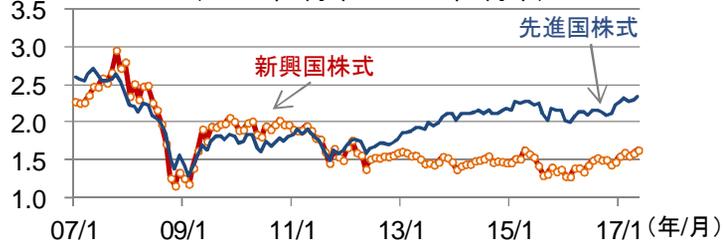
(2007年1月～2017年3月)



(出所)オランダ経済政策分析局

新興国と先進国のPBRの推移

(2007年1月末～2017年5月末)



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。